

組分けテスト

- ※ 問題用紙は(その一)から(その六)までありますから、注意してください。
- ※ 答えは、別紙の解答らんには書き入れなさい。
- ※ 字数指定のある問いは、「」や「。」も一字として数えます。

1 ① 次の——線部を漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなはひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|-------------------------|----|-----------------------------|
| 1 | いつも通り <u>レイセイ</u> に接する。 | 2 | 故郷の村に <u>アイチャク</u> を持つ。 |
| 3 | 弟が部屋を <u>チラカス</u> 。 | 4 | 地元の <u>シヨウテンガイ</u> で買い物をする。 |
| 5 | <u>キボウ</u> を捨てず努力する。 | 6 | 出かける前に <u>ヒヤケ止め</u> をぬる。 |
| 7 | 危険を <u>サツチ</u> する。 | 8 | 相手チームに <u>タイサ</u> をつけて勝利する。 |
| 9 | 暑さで顔が赤みを <u>オビル</u> 。 | 10 | <u>ケンコウ</u> に気をつける。 |

2 ② 次の各問いに答えなさい。

問一 ④ 次の熟語について、1～3は類義語、4～6は対義語を後から選び、それぞれ漢字に直して答えな

- 1 無欠 2 有名 3 発展 4 絶対 5 自然 6 手段
- 「しんぼ じんこう もくてき ほうほう そうたい こうめい かんぜん」

問二 ④ 次の外来語の意味として正しいものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 テーマ 2 リサイクル 3 グローバル 4 ノスタルジア
- ア 郷愁 イ 世界的な ウ 独自の エ 再生利用 オ 主題 カ 標準

問三 ⑥ 次の1～3の言葉を漢字に直しなさい。また、それぞれの意味を後から選び、記号で答えなさい。

- 1 ぜんだいみもん 2 いっちよういつせき 3 いしんでんしん
- ア 短い日時、わずかな期間のこと。 イ 一つのことをして二つの利益を得ること。
- ウ 無言で、たがいの心が通じあうこと。 エ いままで聞いたこともないようなこと。

3 ③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。①～④は形式段落の番号を示します。

① 地球上にはとてもたくさんの生物が生息しています。これまで人間が発見してきた生物は約175万種だといわれています。このうち半分以上の約97万種を占めるのが昆虫です。その次に多いのは約27万種の植物です。人間は背骨をもっている脊椎動物の仲間に分類されますが、脊椎動物は約4万5千種となります。陸上にくらしている生物を見てみると、昆虫が圧倒的に多く存在しているのです。

② ①今、地球上で、人間はわがもの顔でくらしています。人間が自分たちのくらしやすいように環境を変えてしまっているのが、都市部を中心に、昆虫の姿はあまり見られなくなりました。

A、山や森など、自然が豊かな場所に行けば、②たくさんの昆虫たちが生活しています。種の数だけでなく、個体の数でも昆虫が人間たちを圧倒するはずです。

③ しかも、歴史をふり返ってみると、昆虫が誕生したのは約4億年前で、脊椎動物たちよりも先に陸上でくらしていました。

- ④ 昆虫は、**姿形**や生活スタイルがとても**個性的**です。**B**、木の葉や木の枝に姿を似せた擬態をするものがあり、毒針を使って器用に狩りをするハチがいたりします。また、チヨウの仲間には、幼虫のときにアリと同じ※フェロモンを出してアリの巣の中にまぎれこんでしまうものもいます。
- ⑤ なぜ、**③**昆虫がこれほどたくさんの種に分かれて、いろいろなくらしかたをしているのかは、よくわからないところがたくさんあります。しかも、昆虫にはわたしたちとはくらべものにならないほどの能力をもっているものがたくさんいるのです。
- ⑥ カブトムシは自分の体重の約20倍のものを引くことができます。これは、60kgの人間だったら1千200kgのものを引くことができるほどの力です。**C**、トノサマバツタは体長の20倍ほどの高さである1mくらいまでとび上がることができます。もし、トノサマバツタが人間くらいの大きさだったら30m以上もジャンプできる計算になるのです。
- ⑦ **④**このような能力は人間がつくろうと思っても、簡単につくることができないものばかりです。そこで、昆虫の能力をうまく利用する技術が開発されるようになりました。そのひとつが**⑤**テントウムシ(チミテントウ)を利用した生物農薬です。
- ⑧ 野菜をはじめほとんどの植物に寄生し、**⑥**害虫の代名詞といえる存在がアブラムシです。一口でアブラムシといっても、じつはとても種類が多くて、日本には名前がついているものだけでも700種以上が生息しているといわれています。アブラムシは植物の汁液を吸って、植物の成長をおくらせるだけでなく、病気を引き起こすウイルスをいろいろな植物に広げてしまう感染源となるのです。
- ⑨ アブラムシを退治するために、いろいろな農薬が開発されています。よく使われているのが**葉ざい**を利用した化学農薬です。でも、化学農薬は畑にまくのに大きな労力がかかります。しかも、同じ化学農薬をずっと使っていると、そのうちにその農薬が効かなくなってしまうことがあります。
- ⑩ そこで、自然界でアブラムシの天敵になっているテントウムシが生物農薬として使用されるようになりました。農薬といっても、葉ざいを使うわけではないので、生産される野菜はより安全なものになります。でも、ふつうのテントウムシはとぶ能力が高いため、畑に放してもすぐににげてしまいます。そのため、とぶ能力の低いテントウムシを交配させて、生物農薬用のとばないテントウムシがつけられています。実際にとばないテントウムシを畑に放すと、アブラムシの生息数がへるそうです。
- ⑪ このテントウムシは、遺伝子組みかえなどをしていないので、自然環境ににげるようなことがあっても、生態系に影響を与えることはありません。**⑦**農家や消費者だけでなく、自然にも優しい技術として注目されています。

〈荒松良孝「近未来科学ファイル20XX年③〈超人的テクノロジーの巻〉空とぶ車でドライブへ!〉
〈岩崎書店〉より)

※フェロモン：動物が体内で作って体外に分泌し、同種の他の個体に一定の行動や発育の変化を促す物質のこと。

問一④ **A**、**C**にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア また イ さて ウ しかし エ たとえば

問二④ 一線①「今、地球上で、人間はわがもの顔でくらしています」という表現から、筆者のどのような考えがうかがえますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 自然環境を破壊している人間の傲慢さ。 イ 自然環境を作りかえる人間の知恵深さ。
ウ 他の生物と共存している人間の謙虚さ。 エ 他の生物を利用する人間の悪がしこさ。

問三④ 一線②「たくさんの昆虫たちが生活しています」とありますが、文章中ではどのような昆虫のくらしかたが紹介されていますか。次の空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数でさがし、それぞれぬき出して答えなさい。

・植物の姿をまねて**1 二字**をするものや、**2 一字**を使って獲物を捕まえるものや、幼虫のときに別の昆虫の**3 五字**を出してその巣の中で生活するもの。

問四◆ — 線③「昆虫がこれほどたくさん種に分かれ」とありますが、人間はどのくらいの種の昆虫を発見していますか。次の空欄にあてはまるように文章中からさがし、ぬき出して答えなさい。

・人間は、約 種の昆虫を発見している。

問五◆ — 線④「このような能力」とはどのような能力ですか。あてはまるものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 木の葉や木の枝に姿を自由自在に変えることができる能力。
- イ 自分の体重の約20倍の重さを引っ張ることができる能力。
- ウ 体の中で毒を作り出して武器として使用できる能力。
- エ 自分の体の長さの20倍の高さまでジャンプできる能力。
- オ すさまじい繁殖力を持ち個体の数で人間を圧倒できる能力。

問六◆ — 線⑤「テントウムシ（ナミテントウ）を利用した生物農薬」とありますが、

1 「テントウムシを利用した生物農薬」とはどのようなものですか。次のように説明するとき、空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数でさがし、それぞれぬき出して答えなさい。

・害虫の I 五字 を、 II 三字 をまくのではなく、自然界での III 二字 であるテントウムシを使って退治するということ。

2 「生物農薬」と意味の上で対になる言葉を文章中から四字でさがし、ぬき出して答えなさい。

問七◆ — 線⑥「害虫の代名詞といえる存在がアブラムシ」とありますが、

1 「害虫の代名詞」とは、ここではどういう意味ですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 害虫の種類 イ 害虫の名前 ウ 害虫の別名 エ 害虫の代表

2 「アブラムシ」が与えている植物への害とはどのようなことですか。文章中の言葉を使って四十字以内で答えなさい。

問八◆ — 線⑦「農家や消費者だけでなく、自然にも優しい技術」とありますが、どのようなことが「優しい」のですか。1「農家」、2「消費者」、3「自然」にあてはまる「優しい技術」の説明を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 続けて使うと効果がなくなること。 イ より安全な野菜が手に入ること。
- ウ 生態系に影響がないこと。 エ 労力があまりかからないこと。
- オ 広範囲に飛んでいけること。 カ 自然に数が増えること。

問九◆ この文章からは、次の一文がぬけています。段落の最後にもどすとすると、どこがよいですか。段落番号で答えなさい。

- ・つまり、地球での生活はわたしたち人間よりも、昆虫たちの方が大先輩なのです。

問十◆ この文章の内容としてあてはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地球上の昆虫の種は、他のどの生物よりも圧倒的に多い。
- イ 昆虫の姿形や生活スタイルは、とても個性的だ。
- ウ 昆虫の能力は、人間よりもはるかに劣っている。
- エ 人間は昆虫の能力を利用する技術を開発している。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

四班の班長である「ぼく」と副班長の「由実」は、先生から、へびがこわくて山道が苦手の俊一と、腎臓が悪く運動が制限され、たびたび車いすを使っている春子をも、山登りをする遠足に連れていくべきか相談された。四班全員で行くと宣言した由実は、「ぼく」といっしょに辰男の家をたずねた。辰男には、足に障害のある妹がいて、辰男が世話をしている。

「お店のほうは、お手伝いしなくてだいじょうぶ？」

と由実が心配した。

「かまへん。たまのというか、はじめてのおれのお客さんや。ゆっくりしてつて。」

「ゆっくりしてつて。ほんまに。」

と妹がテレビのほうを見たまま、かわいらしい声でいった。

「こいつ①めずらしいお客さんに、はずかしがつとんのや。洋子いうんや。おぼえとつてやつて。」

辰男もてれくさそうにいった。

由実は遠足のことを辰男に話した。辰男は、由実がしゃべりおわるまで、じつときいていた。それから、**A**息をはいてからしゃべりだした。

「おれ、思うんや。春子より、俊一のほうがたいへんやないかって。へびがこわいっちゆうのんは、どないしようもないで。ま、いつべん、おれからきいてみよか。遠足どないするねんて。」

②辰男は、「ぼくらが考えていたこととは反対のことをいった。」

「春子ちゃん、いっしょに行つてくれるかな。」

と由実。

「③井上しだいや。」と辰男。

えつ、とぼくは声をあげた。

「おまえ、春子のこときらいやろ。」

「なまいきなんだよな。」

と、ぼくは少し間をおいていった。

「どうしてや。」

「体が弱いくせして、ひとに命令ばつかりするだろ。車いすで運んでやつても、④ありがとうもいわないんだぜ。」

妹の洋子がゆっくりうつむくのが見えた。**□** と思った。

「春子はたしかになまいきやけど、体の弱いやつがなまいきやつたらあかんか。なまいきできるのんは、体の強いやつだけか。」

「べつに⑤そんなことないけど……。」

「春子な、井上にきらわれているの、ようわかってる。できることなら、おまえになんかおしてもらいどうないんやで。でも階段上られへん。泣きたいのがまんして、車いすにすわつてるのどちやうか。春子にも意地があるんや。いやいや車いすおしてるのに、そのいやいやをかくしてるやつに、ありがとうなんかいわれへんで。おまえ、いやいやおしとんのやろ。顔にようでとるわ。」

ぼくはうなずいた。けれど、辰男のいい子ちゃんぶつたい方はきらいだった。

「いややつたら、いややていわんかい。」

「いつてもいいのか。」

「あたりまえや。おまえは春子の子分ちやうやろ。いややつたら、いややいえ。それから車いすおしたれ。」

「やっぱりおすのか。」

「あたりまえやろ。おんなじ学校の、おんなじクラスのもんやないか。そんで、ありがとつていうてほしかつたら、ありがとつていえつ、でどなつたらええんや。」

「そんなこといえないよ。」

「おまえのあかんところは、そこや。すぐにええかつこしよる。なんでいわれへんや。先生におこられるからか。春子にすまんからか。⑥それがいえるまで、春子は遠足なんか行かへんで。」

(⑦いいかつこうしてるのは、おまえだろ。)

そう思ったけど、口にはださなかつた。

⑧辰男のいうこともわかる気がした。だけどぼくは、俊一や春子を遠足につれていくなんてめんどうくさいことはいやだった。へびのきらいな俊一を、はげましたりなくさめたりしながら山道を登るなんて。わがままな春子のごきげんをとつて、遠足までになかよくなるなんて。

(数日後、「ぼく」は俊一のことをわかつていた生徒と学校でけんかになる。)

辰男といっしょに、保健室から三階へ、車いすをあげた。春子が、スロープ階段のところまで、じつとまっていた。どれくらいまっていたのだろう。ひとりで、壁にもたれて、ぼつんといた。

ぼくも辰男もだまっていた。春子はゆっくり車いすに腰をおろした。葉のせいで顔はふくらんでいたけど、体はほそく弱々しかった。そのくせつんとすまして、両手をひざの上いきちんとのせていた。

ぼくはそのとき、また、みように腹が立つてき

40

45

5

10

15

20

25

30

35

50

55

60

65

70

75

80

ていた。けんかのあとだったからだろうか。いや、そんな腹立たしきとはちがう。校門で俊一に腹を立てたときと似ていた。⑨春子がかわいそうだと

思いながら、その春子に腹を立てていた。
「おねがいしますぐらいえよ。」

85

ぼくの口から、今までいえなかった言葉がとび

でた。
学校の東すみにあるスロープ階段には、ぼくら以外にはだれもいなかった。

春子は **B** 前を見ているだけだった。 90

ぼくと辰男は、ゆつくり車いすをおしはじめた。
(中略)

「遠足、行けよな。」

ぼくは春子の頭にむかって命令した。

春子の肩が **C** ぶるえた。

「遠足、行こか。」

95

辰男の声はやさしかった。

春子はだまっただまっただ。

四階で由実と俊一がまっていた。

五時間めをつげるチャイムが鳴りはじめてい

100

た。
「俊一。遠足行けよな。人間はへびより強いんだぜ。」とぼく。

「遠足、行こか。」と、辰男。

「勇者は強い、のだ。強いのは、登らなければなら、ない。井上圭も、強い、のだ。加藤俊一も強い。ウーッ。」

105

と俊一は力こぶをつくってみせた。

由実がにこつと小さく笑った。

「行こうね。」

春子がなにもいわず車いすをすつと立ちあがっ

110

た。由実がびくつと肩をすぼめた。

「ありがとうぐらいえよ。運んでやったんだぜ。」

ぼくの声もまたけんがごしになっていた。でも

春子はおこっているのではなかった。

春子はぼくのほうをふりむいた。「こんなのて

115

れちやうよ。」といいながら、つづけてはつきり

いった。
「⑩遠足、行つてやるよ。」

言葉とはうらはらに、いやみつたらしいひびきは

120

なかった。
「つれてつてやるよ。」

とぼくもいいかえしてやった。

由実がまたにこつと笑った。

「ありがとう。でもいちいちお礼いうのめんどう

125

だから、これ、一年ぶん。あ・り・が・と・う。」

と春子は、なぜかVサインをだした。

(横山充男「ぼくらは春に」〈文研出版〉より)

問一◇ **A**、**C** にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア じつと イ びくつと ウ むかつと エ かつと

問二◇ 線①「めずらしいお客さん」とはだれのことですか。文章中から「お客さん」をすべてさがし、それぞれの名前をぬき出して答えなさい。ただし、名前は一人につき一つ、名字か名前をぬき出すこと。

問三◇ 線②「辰男は、ぼくらが考えていたこととは反対のことをいった」とありますが、「ぼくらが考えていた」のはどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア へびがこわいのは俊一ではなく、春子だと思っていたということ。

イ 俊一より、春子のほうが遠足に行かせるのは大変だと思っていたこと。

ウ ぼくたちが春子に遠足をどうするのか聞こうと思っていたということ。

エ ぼくたちは春子と辰男に遠足に来てほしくないと思っていたということ。

問四◇ 線③「井上しいや」とありますが、春子が遠足に行きたがらない原因について辰男はどのよう


に考えたのですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数

でさがし、それぞれぬき出して答えなさい。

・春子は、井上が車いすを **1** 四字 おしていることや、井上に **2** 五字 いることをよくわかっているから。

問五④ — 線④「ありがとうもいわないんだぜ」とありますが、春子が「ぼく」に「ありがとう」と言わない理由を、辰男はどのように考えていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ぼくが春子の車いすをおすのをいやがっているのがわかるので、素直に感謝したくないから。
- イ 春子の車いすをおすのは大変だとわかっているのに、ただお礼をいうだけでは足りないから。
- ウ ぼくが春子の車いすをいやいやおしているだけでなく、感謝するように強要するのがいやだから。
- エ 春子の車いすはぼくだけの力ではおせないことが分かり、ぼくをばかにするようになったから。

問六④  (32行め) にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア やった
- イ しまった
- ウ たすかった
- エ なんだ

問七④ — 線⑤「そんなこと」とはどういうことですか。文章中の言葉を使って五十五字以内で説明しなさい。

問八④ — 線⑥「それ」とはどんな言葉ですか。文章中から三字と十字でさがし、それぞれぬき出して答えなさい。

問九④ — 線⑦「いいかつこうしてるのは、おまえだろ」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 同情
- イ 尊敬
- ウ 恐怖
- エ 反発

問十④ — 線⑧「辰男のいうこともわかる気がした」とありますが、辰男が言おうとしていることとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ぼくは春子のことがきらいだから、わざと遠足を休もうとしているのではないかということ。
- イ ぼくはうわべで春子を気つかっているだけで、春子の気持ちを考えていないのではないかということ。
- ウ ぼくは、春子が本当はやさしいことに気づかないふりをしているだけなのではないかということ。
- エ ぼくは本心では春子が好きなのに、はずかしくて素直になれないだけではないのかということ。

問十一④ — 線⑨「春子がかawaiiそうだと思いながら、その春子に腹を立てていた」とありますが、このとき「ぼく」が感じ取った春子の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ぼくたちの手助けを必要とする弱い立場にあつても強がっている強情な女の子。
- イ ぼくたちの手助けをあたりまえだと思い、おまえきつている図々しい女の子。
- ウ ぼくたちの手助けにお礼を言いたくても言えない、恥ずかしがりやの女の子。
- エ ぼくたちの手助けが必要な情けない立場で、びくびくしている臆病な女の子。

問十二④ — 線⑩「遠足、行ってやるよ」とありますが、春子が遠足に行く気になった最も大きなきっかけはどんなことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 辰男のやさしさそいかたに安心し、信頼できると思ったこと。
- イ いつもはやさしい言葉をかけない由実が、強くさそったこと。
- ウ 俊一がへびへの恐怖心をがまんして、遠足に行くと言ったこと。
- エ ぼくがえんりよせずに文句を言って、仲間としてさそったこと。